

C-8 衣服の動作適合性に関する研究 - 肩関節の動きと袖つけの構造について -  
お茶の水女大家政 柳沢澄子 ○高橋真理子 安藤美栄子 高部和子

目的 着用者の体型に適合し、かつ動的機能を満す衣服原型を設定することを目的として、衣服原型に近いブラウスを対象服種とし、袖つけの部位に重点をあて、官能検査法を用いて着用実験を行なった。

方法 胸囲・背肩幅による体型分類を行ない、普通体型・厚みのある体型・扁平な体型の3体型を取り上げた。被検者は高校生女子27名である。実験に取り上げた要因は、袖ぐり寸法を「 $\text{胸囲}/2$ 」、「 $\text{胸囲}/2 - 1.5 \text{ cm}$ 」、「 $\text{胸囲}/2 - 3.0 \text{ cm}$ 」の3水準、袖山の高さを「 $\text{袖ぐり寸法}/4$ 」、「 $\text{袖ぐり寸法}/3$ 」の2水準とし、型紙設計はY式によった。着用実験については、正常姿勢における観察として、着用者が「袖ぐり寸法」を、実験者が「袖の形の良否」を判定し、動的体型への適合性は主として着用者が判定した。実験動作は、肩関節周辺の寸法的变化の著しい4動作を採用した。実験データの解析は、累積法を用いて分散分析を行なった。

結果 動作適合性に関する分散分析の結果、体型(A)、袖ぐり寸法(B)、袖山の高さ(C)、動作(D)、片腕両腕動作(E)の主効果及びCとの交互作用では、いずれも有意差が認められた。Bについては、袖ぐり寸法が大きいほど動作適合性が高くなる傾向があり、Cについては、袖山の低い方が適合性が高い。正常姿勢と動的体型の両者に適合する袖つけの構造に関する製図条件は次のようである。すなわち、袖ぐり寸法：「 $\text{胸囲}/2 - 1.5 \text{ cm}$ 」、袖山の高さ：「 $\text{袖ぐり寸法}/4$ 」、または、袖ぐり寸法：「 $\text{胸囲}/2$ 」、袖山の高さ：「 $\text{袖ぐり寸法}/3$ 」の組合せである。